

新基地建設反対名護共同センターニュース

「オール沖縄」候補を全員当選させよう！

日本共産党の山下芳生副委員長・参院議員は22日、沖縄県内各地で街頭演説し、辺野古新基地建設に反対する1〜4区までの「オール沖縄」の候補全員当選で「政権交代を実現し、沖縄の聲が生きる新しい政権を一緒につくりましょう」と訴えました。

うるま市や沖縄市内で山下氏（写真右）は、ヤラ朝博3区候補（立憲民主党）の、浦添市内では新垣クニオ2区候補（社民党）の応援演説をしました。那覇市県庁前であかみね政賢1区候補（共産党）と共に訴えました。

山下氏は「オール沖縄の闘いに学んで、市民と野党の共闘が発展し、共通政策に辺野古新基地建設中止が入りました。準備は整いました。政権交代をはじめましょう」と訴えました。山下氏は、金城トオル4区候補（立憲民主党）の事務所を激励訪問しました。



政権交代で沖縄の聲が生きる新しい政権を 共産党山下副委員長が1区〜4区候補を応援

科学的根拠なくサンゴを移植し死滅さす 大久保准教授 防衛省と環境監視等委員会を厳しく批判



“夏場でも移植可能と思う”と「研究者」へり基地反対協議会が「サンゴの海が泣いています」と題し名護市内で講演会を開催、40人が参加しました。講師はサンゴの移植に詳しい東京経済大学の久保奈弥准教授（写真）。大久保さんは「環境監視等委員会も当初は高温水期を避けて移植することとしていたのに、2018年の委員会ですら『ハマサンゴに関しては夏場でも移植可能なのではないかと思う』との研究者の発言を根拠にその夏に絶滅危惧種のオキナワハマサンゴが移植された」と指摘。

その後、「移植した9群体のうち5群体が死滅や消失した。結果的に科学的根拠のない発言でサンゴを死なせてしまった。研究者の罪は重い」とし、「根本は防衛省と環境監視等委員会に責任がある。特に同委員会は防衛省にお墨付きを与える機関になってしまっている」と厳しく批判しました。



全国革新懇が「オール沖縄」支援へ

全国革新懇の代表が20日、総選挙での市民と野党共闘の勝利をめざす活動の第1弾として沖縄を訪問しました。20日は那覇市内で沖縄県革新懇や県統一連の代表らと交流（写真）を行い、21日にかけて衆院選の沖縄1区から4区までの「オール沖縄」の各候補を激励しました。全国革新懇からの参加者は代表世話人の池田香代子（翻訳家）、矢野裕（元狛江市長）、小田川義和（元全労連議長）、岡崎民人（全商連事務局長）、乾友行（全国革新懇事務室長）の各氏ら。

ミャンマー支援 “サンセットライブ”

130人余が野外で生演奏を楽しむ

ライブで歌や演奏を披露する左上から時計回りで、ショーケン、川口、チーム海勢頭の各出演者。



ミャンマー連帯・民主化支援「サンセットライブ」が23日、同実行委員会の主催で名護市内の野外ステージで開かれ約130人が参加しました。出演者は、川口まゆみ、知念良吉、海勢頭豊、伊集盛健、大城ショーケンの各氏で、多彩な歌や演奏を2時間にわたって披露しました。各出演者は、「平和でこそ、音楽や文化です」と弾圧とたたかうミャンマー市民への連帯と支援を訴えました。会場には家族連れや市民や名桜大の学生など130人余りが集まり、生歌と生演奏を2時間たっぷり楽しみました。

ミャンマー留学生2人が、暴力的弾圧を繰り返す軍事政権を批判し、弾圧とたたかうミャンマー市民への支援を訴えました。会場でミャンマー支援カンパ9万3千円余り寄せられ、留学生に託されました。

実行委員会には、やんばる統一連やへり基地反対協・海上チームが加わり、宣伝・組織活動や会場設営などで「ライブ」の成功を支えました。